

VI、 H30年度社会福祉法人にしあがつま福祉会事業計画

はじめに

当福祉会は、昨年開設25年を迎え記念式典も開催され一つの節目を飾ることが出来ました。この間、福祉社会では措置から契約による利用となり企業努力が強く求められる時代になりました。2025年には高齢者の数もピークになりその後は介護サービスの利用者も減少していく時代を数年で迎えることも現実迫ってきます。又一方で少子高齢化の社会が起因して福祉関係従事者の減少、不足という現状にもあり、今後安定した法人運営には5年10年先を見た計画を確実にして行かないとなりません。

その中で昨年度、「にしあがつま福祉会活性化委員会」が半年間にわたり行われました。今後はその活性化計画を基本姿勢として取り組んでいきたいと考えています。

<にしあがつま福祉会活性化基本方針>

外に対して [利用者をより意識したサービスの提供]

- ・より住民に寄り添った地域包括ケアの構築
 - ①現サービスの維持と向上
 - ②看取りの普及、啓発活動
 - ③地域の理解を高めるための情報提供
- ・より充実したサービスの提供と、新しいサービスの検討
 - ①利用者や家族に耳を傾ける
 - ②各種サービス間の連携と営業展開
 - ③グループホーム等の検討
- ・より自立した法人への成長と地域貢献
 - ①経営健全化
 - ②財務状況の情報公開
 - ③地域貢献事業

内に対して [各々の役割を意識した職場づくり]

- ・新たな役割分担の明確化
 - ①理念の浸透
 - ②組織の再構築
 - ③職務分掌の再検討
- ・新たなキャリアパスの明示と人事考課等の構築
 - ①教育訓練計画の作成
 - ②人事考課の手法再検討
 - ③学校等と連携した人材確保計画
 - ④奨学金の再検討
- ・より意思の疎通を高めた協力体制の構築
 - ①職員のコミュニケーション力の向上
 - ②行政との連携
 - ③関係機関との連携

私たちは、法人の基本理念を再認識し、利用者主体のサービスを充実すると共に、皆さんへの情報提供に努めます。そのためには、法人の施設内部において、各々の役割を再構築すると共に、各々の将来（人生設計）が描けることが必要です。仕事に携わるすべての人が、サービス提供者であるという自覚の元、協力や分担を行いながら、キャリアを積み上げて充実した職場や生活づくりを目指します。

にしあがつま福祉会は地域の福祉の拠点として今後も地域や保護者、家族の皆さんに信頼して頂けるよう入居者、利用者の個人の尊厳を守り、明るく楽しく、安全に生活ができるよう職員一丸となって支援していきます。そして、自立した生活を地域社会において営むことができるような支援ができる事業所職員の育成と快適な施設づくりに努めます。

I、特別養護老人ホームからまつ荘運営方針

(介護老人福祉施設・短期入所者生活介護・介護予防短期入所生活介護)

(目標)

- 1、職員教育等による介護サービスの質の向上
- 2、施設稼働率の改善等による利益の向上
- 3、H棟利用方法における検討

(取組)

現行では、入居者・家族に対し満足度調査等を実施していないため、からまつ荘の介護サービスの質が本人や家族から見てどの程度であるかが不明瞭である。満足度調査を実施し現状の把握を行うと共に各種研修、委員会活動の内容を刷新し、全職員が意欲的に働く仕組みを通じて、サービスの向上につなげられるように努める。

からまつ荘の施設稼働実績は

平成27年度：73.57人 / 1日

平成28年度：73.79人 / 1日

平成29年度：73.66人 / 1日(4~11月) と比べてほぼ同数である

しかし、これまで目標としていた全国平均の75.5人にはいずれも届いていない結果となった。要因としては入院者が一日平均4.16人と退所になってからの空床の次期入居者決定までに時間がかかっていることが考えられる。

今年度の目標値としては前年度の平均より1人多い

74.5人 / 1日としていく。

その目標対策として

第一に、入所判定委員会を適宜実施し、空床が出来たら1~2週間以内に新規入所につなげられる様優先的に取り組む。

第二に、病院との連携を密にはかり入院先に状況を確認する(週に一回以上)と共に家族にも報告相談し、連携を図り退院の方向を進めていく。

短期入所の稼働実績に関しては、

平成27年度：8.38人 / 1日

平成28年度：7.93人 / 1日

平成29年度：8.21人 / 1日(4~11月)となっている。

サービス付高齢者住宅・高齢者グループホーム等入所施設が増加してから短期入所利用者が年々減少傾向にあるが近年にない数値として

8.5人 / 1日としていく。

その目標対策として

長期利用者や定期利用者のベッドを確保するとともに男女別の空き部屋、空ベッドの状況を見ながら、地域居宅ケアマネ等に情報提供を行っていく。

昨年度「にしあがつま福祉会活性化委員会」で計画されたH棟利用に付いては障害者のショート利用が上げられている。

現在入居している利用者5名との調整を行うと共に地域に密着し貢献出来る施設として積極的に検討していきたいと考えている。

II、からまつ荘通所介護事業

(通所介護事業・総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)・長野原町身体障害者デイサービス事業)

<目標>

- 1、利用者・職員が笑顔で楽しく一緒に活動し「楽しかった」「また来たい」と思っているだけの時間づくりを目指します。
- 2、利用者が「安全」「安心」して過ごせ、家族に信頼して頂ける施設づくりを目指します。

<取組>

① 通所事業

- ・生きがいを持てるように年間行事・余暇活動の充実を図る。
- ・在宅生活を援助していくために各個人の状態を把握し、利用者の能力に応じたサービス、利用者にあった利用時間の提供、今の状態を維持するための各個人のリハビリ、通所介護計画書に沿ったサービスの提供を行う。
- ・利用者が安全、安心して利用する為に、家族との連絡、相談を行い、家族の介護負担の軽減・精神的緩和を行っていく
- ・利用者がその時何を考え、感じているのかを察知し状況に応じた対応ができるようにする。

② 総合事業

- ・生きがい（楽しみ）を持てるように年間行事・余暇活動の充実を図る
- ・在宅生活を支援していくために家族、ケアマネージャーと連絡をとり、各個人の状態を把握し、残存機能が落ちないようにリハビリ・利用者の能力に応じたサービスを提供する。

③ 長野原町身体障害者デイサービス事業

- ・生きがい（楽しみ）を持てるように年間行事・余暇活動の充実を図る
- ・日中の活動の場として主体的に社会参加し、趣味活動を広げ、地域での自立した生活が送れるように、意欲と主体性を引き出すきっかけとなるように支援する。

Ⅲ、からまつ荘訪問介護事業

(訪問介護事業・総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)・障害福祉サービス・ホームヘルプサービス事業)

(目標)

利用者との信頼関係を大切に、自立支援を目標とし誠実にサービスを提供する

(取組)

- 1、訪問介護 研修に参加し、スキルや知識を身につけ難病や看取り等の依頼にも対応する。利用依頼があった場合にはできる限り対応できるようにする。
- 2、総合事業 利用者個人の状態、状況を把握しながら自立支援を行う。
- 3、ホームヘルプサービス事業(長野原町委託事業)
支援の人の通院、買い物付添等の利用を増やしたい
- 4、障害福祉サービス(訪問)
生活支援及び精神的支えになれるよう援助していく。

Ⅳ、からまつ荘居宅介護支援事業

(目標)

本人、家族に寄り添い、地域及び医療と連携し在宅での生活が可能な限り継続できるように支援する。

(取組)

- 1、本人、家族に寄り添ったケアマネジメントを行う
- 2、主治医、専門職、地域との連携
- 3、本人、家族からのサービスに対する評価を各事業所に伝える
- 4、担当利用者はケアマネージャー1人に付き40人を目指す

V、障害福祉サービス事業所「やまどり」

(目標)

- 1、法人の理念を念頭に置き、利用者個々の障害特性を理解し、又、利用者一人一人を尊重し一人の社会人としての社会性や協調性を身につけ、地域社会への積極的な参加も行いながら、利用者の方が安心、安定した生活が送れるよう支援する
- 2、にしあがつま福祉会活性化委員会で計画されたからまつ荘内の増床部分の空ベッドを有効活用した障害者の短期入所を地域や保護者のニーズに応えられるよう実施に向けて検討する。

(取組)

- 1、創作的活動
- 2、生産活動
- 3、地域社会との交流、促進
- 4、社会適応訓練
- 5、協調性、社会性の向上
- 6、障害者の短期入所の実施に向けての検討

<やまどり生活介護>

- <目標> ・個々の利用者の状態に合わせた日中支援の充実
- ・安心、安定し落ち着いて過ごせるための支援と環境づくり
- <取組> ・精神的安定を図るための支援
- ・状況に応じた個別支援対応
- ・集団に馴染まない利用者等の特性に合わせた環境の提供
(個室や仕切り壁などの環境整備)
- ・職員の支援技術、資質の向上(研修参加等)
- ・相談支援専門員等関係機関との連携

<やまどり就労継続支援B型>

- <目標> ・工賃向上の促進
- ・働きやすい環境づくり
- ・職能技術の向上
- ・一般就労や施設外就労
- <取組> ・授産の拡大(数量、販路等)
- ・新規授産作業の開拓、検討
- ・作業指導、能力開発
- ・相談支援専門員、関係機関との連携

VI、地域活動支援センター「すきっぷ」

- (目標) ・利用者を増やす(必要とされる方に多く利用してもらう)
- ・安心安定し、落ち着いて生活が送れる。
- ・地域に密着した施設運営
- (取組) ・啓蒙、PR、利用促進
- ・創作活動、生産活動、レクリエーション活動の充実
- ・地域社会への積極参加
- ・個々の利用者の特性に応じた支援の充実